

# 地学オリンピック支援委員会

## 第12回議事録

2017年1月13日  
委員長 田中 義洋

期 日：2017年1月9日（月）13：00 - 15：00

場 所：日本地質学会事務局会議室

出席者：浅野、川勝、芝川、久田、平田、渡来（出席者6名、委任状提出1名で委員会は成立）

### 議 題

1. 平成28年度の活動報告
2. 第9回日本地学オリンピック予選問題の評価
3. 平成29年度の体制および活動方針の確認
4. 次回委員会の日程

### 詳 細

#### 1. 平成28年度の活動報告

(1) 委員会を2度開催（第10回：1月9日および第11回：5月22日）

(2) 第8回日本地学オリンピック予選の問題検討

1月～5月中旬にメーリングリストで検討を行い、以下を地学オリンピック日本委員会の社員総会（5月）に「予選問題の評価と要望」および「予選問題の分析（解法）案」提出した。

(3) 第10回国際地学オリンピック日本大会への協力（1月～8月）

本委員会から7名の委員が運営委員会に参加し、6名の委員が大会期間中に協力した。久田委員から日本大会が無事に終わり、開催地三重県の高校生との交流が多く設けられるなど、感触としては概ね印象の良い大会だったとの報告があった。

(4) 第10回国際地学オリンピック日本大会日本代表選手の通信研修指導

地学オリンピック日本委員会の依頼を受け、本委員会から3名の委員が協力した。

(5) 広報活動

地質学会・東京桜上水大会の「小さな Earth Scientist のつどい」ポスター発表会場にて、日本大会の報告と第9回予選の内容のポスターを掲示し、チラシなども配布した。

(6) 各委員が携わった地学オリンピック関連行事の報告

浅野委員から千葉県での地学オリンピック講座の講習内容と参加状況について報告があった。これに関し、参加者を増やす方策の一つとして、大学のAO入試に日本地学オリンピックの成績が利用できることを周知すると効果があるのではないかと助言があった。

#### 2. 第8回日本地学オリンピック予選問題の評価

(1) 各委員の予選問題に対する感想・意見・要望

予選問題および芝川委員作成の出題と教科書との対比に関する分析資料をもとに意見交換を行った。思考力によって解ける問題も含まれている、教師目線で見ると面白い問題との感想や、地学基礎を受講していない生徒にとっては難しい、問題数が多いので解答時間が足りないだろうなどの意見、さらには正解の選択肢のバラつきに配慮する必要性などが指摘された。問題以外では、予選

時に配布される未来ガイドが生徒に好評との報告があった。

## (2) 評価および分析に関する検討

日本地学オリンピックの成績を大学入試に利用する機会が増えてきたため、これまで本委員会が行ってきた予選問題の評価をより充実させることを確認した。具体的には、学校教育上の立場、すなわち教師および生徒目線で評価を行い、大問単位で特徴を分析し、地質ニュース誌などでの公開を目指す方針を決めた。今後は、5月を目途にメーリングリストで議論を重ね、評価案を作成することとした。さらに地質学会員の学校教員の先生方に意見を伺うことを検討することとした。

また、本委員会では、地学オリンピック日本委員会に対し、出題意図の提示や解説作成を要望し続け、その実現に向けた策として第8回予選問題の解説書案を作成し提出した。この件に関し、解法は受験者にとって必要との見方で意見が一致した。さらに、解法のみであれば本委員会での継続作成が可能との見通しが立ち、久田委員が地学オリンピック日本委員会との調整を行うこととした。

## 3. 今後の活動方針の確認

### (1) 委員会の活動方針

地学オリンピックの認知度が高まるにつれ、本委員会が行ってきた国内選抜や代表者研修などへの支援が以前に増して重要との見解に至った。このような状況をふまえ、今後も地学オリンピックに特化して委員会活動を行っていくことを確認した。

### (2) 委員の任期

委員会の継続に伴い、委員の任期をはじめとした委員会規則を次回総会までに準備することを決めた。

## 4. 次回委員会の日程

平成29年度は委員会の開催回数は1回、日時は2018年1月6日（土）を予定することとした。

以上